



神戸大学大学院
人間発達環境学研究科

Graduate School of
Human Development and Environment

2021

人の発達、人間の発達を 支える環境

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生（well-being）の実現を目指して「知」の構築を行っていきます。

人間発達環境学研究科は、well-being 社会の創造を担う人材を養成します。

- ◎課題解決のために多様な人々と実践的に協働し、リーダーシップを発揮できる人材
- ◎幅広い視野と深い専門的知識を持った高度専門職業人や研究者
(進路：民間企業、NGO、NPO、公的機関、研究教育機関等)

アドミッション・ポリシー

入学者受け入れ方針

人間発達環境学研究科は、人間の発達およびそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

人間発達環境学研究科の求める学生像

- 1 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
〔求める要素：知識・技能〕
- 2 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
- 3 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 4 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

人間発達環境学研究科は、2021年4月1日より、次のように教育組織の改編を行います。

研究科改変前（～2020年度）			研究科改変後（2021年度～）		対応する学部組織	
専攻	講座		専攻	講座	教育研究分野	
人間発達	こころ系	→	人間発達	人間発達	心理系	
	表現系				表現系	
	からだ系				行動系	
	学び系				教育系	
					国際人間科学部の学科	
					発達コミュニティ 子ども教育	
人間環境学	環境基礎論	→	人間環境学	人間環境学	環境基礎科学系	
					環境形成科学系	
	環境形成論			環境先端科学 (連携講座 後期課程のみ)	環境先端科学	
					国際人間科学部の学科	
					環境共生	



Contents

研究科長からのメッセージ 2

教育プログラムの概要 3

カリキュラム 4

大学院生の研究活動 8

学術交流 10

社会貢献・地域貢献 12

人間発達専攻 14

人間環境学専攻 20

主な協定校 26

キャリア教育、施設紹介 27

入試情報、沿革 28

アクセス 29

研究科長からのメッセージ



青木茂樹 教授
人間発達環境学研究科長

近年の科学技術（特に情報通信技術）の発展やグローバル化の進展は、急速に経済・社会のルールを変化させ、人々のライフスタイル、社会と人間の在り方、国家間の相互依存関係などに影響をもたらし、地球規模の様々な課題を顕在化させています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、地域経済社会は疲弊しつつあります。このような状況では、人間の発達が阻害される可能性、すなわち一人ひとりの人間が潜在的にもつ多様な能力の発現が妨げられることが危惧されます。

私たちには、「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という困難な問いと向き合い、より実践的な観点から具体的な解を導くことによって、より善き生（well-being）の実現を目指した「知」の構築が求められていると思います。

人間発達環境学研究科は、この要請に応えるため、2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の発達およびそれを支える環境を対象とした発達科学に関する卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、人間を取り巻く環境について、人間の潜在的能力を開花させる観点から教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会（ヒューマン・コミュニティ）の創成を目指して、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達と発達を支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、教育学、心理学、健康科学、体育・スポーツ科学、社会学、芸術学、工学等々の領域において、「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、理学、工学、社会学、経済学、法学、農学、家政学等々の領域において、「人間の発達を支える環境」に係る諸事象を「人間の発達を促進し支援する環境要因の解明と開発」という視点から総合的に捉え教育研究を行います。

本研究科の教育研究活動には、次の3つの特色があります。

第一に、学際的・総合的であるという点です。本研究科では、異なる専門分野間の連携や複数分野での協働をとおして、複雑化・重層化する人間の発達や環境に係る様々な課題に対し、多面的・総合的・包括的な研究を推進しています。

第二に、実践的・応用的であるという点です。本研究科では、現代社会に生起する様々な問題の解決を目指し、関係者と協働しながら有効な解決方法を開発するアクションリサーチの手法を用いた研究を実施しています。特に研究科附属の発達支援インスティテュートでは、「大学と地域とを結ぶプラットフォーム」として、教育・研究・社会貢献を一体的に進めています。

第三に、国際的であるという点です。本研究科では、海外の大学との学術交流を促進するとともに、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーを積極的に実施し、教育研究の国際化を推進しています。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現を目指し、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の未来社会において、well-beingが重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。私は、本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。

みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、私たちとともに、歩んでいただきたいと願っています。

教育プログラムの概要

幅広い視野を持ってwell-being社会を創造する実践型リーダーの育成のために——理論と実際を往還する課題解決型教育プログラム

◎学問領域複合型教育

人間発達専攻 →詳細は p.14

学位：修士（学術）、修士（教育学）、博士（学術）、博士（教育学）

人間発達講座

『人間の発達』に関して、「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という視点から、総合的かつ高度な文理融合型専門教育を提供します。

教育研究分野

- ◎心理系
- ◎表現系（表現創造、表現文化）
- ◎行動系
- ◎教育系（教育科学、子ども発達、発達支援）

臨床心理学コース

公認心理師（心理臨床の国家資格）および臨床心理士（心理臨床の高度専門職）資格認定試験の受験資格が取得可能です。

発達支援1年履修コース（社会人対象）

発達支援に関する実践的教育（1年で修士号取得が可能）を行います。

人間環境学専攻 →詳細は p.20

学位：修士（学術）、修士（理学）、博士（学術）、博士（理学）

人間環境学講座

『人間の発達を支える環境』に関して、「人間の発達を促進し、支援する環境要因の解明」という視点から、総合的かつ高度な文理融合型専門教育を提供します。

教育研究分野

- ◎環境基礎科学系（自然環境論、数理情報環境論）
- ◎環境形成科学系（生活環境論、社会環境論）

環境先端科学講座（連携講座）（後期課程のみ）

環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関と連携します。

◎Action Researchを通じた実践型教育

研究科横断型教育プログラム →詳細は p.4

ESDサブコース

持続可能な開発のための教育

(Education for Sustainable Development) の理論と実践について学ぶ研究科横断型教育プログラムを提供します。

発達支援インスティテュート →詳細は p.12

人間発達に関する教育研究、実践的研究を行い、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティを創成し、社会貢献を行います。

- ユニット
- ◎ヒューマン・コミュニティ創成研究センター
 - ◎心理教育相談室
 - ◎サイエンスショップ
 - ◎教育連携推進室
 - ◎アクティブエイジング研究センター

カリキュラム 博士課程前期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成を目指しています。このため、本研究科では、個々の学生が在学中のあらゆる機会を通じて知識、スキル、能力、資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、能力開発支援型の教育プログラムを提供します。

教育・研究のポイント

徹底した基礎的・実践的教育

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクションリサーチの技法など、研究の基本的手法を修得し研究能力の基礎を固めます。さらに「特別研究Ⅱ」において、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際的手法を修得します。

個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、各専攻において専攻共通科目を置いているほか、個々の研究課題に応じたコースワークが可能となるように、基礎科目、展開科目および関連する専門科目から構成される、積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。

ソフトスキルや社会人基礎力の育成

研究会、セミナー、修士論文発表会などの教育研究活動において、「参加」「運営」といった役割を担うことにより、コミュニケーション能力、ネゴシエーション能力、企画力、マネージメント能力、チームワーク力、リーダーシップ力といったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成する教育

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、発達支援インスティテュート（p.12参照）を活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

持続可能な開発のための教育プログラム「ESDサブコース」を設置

「持続可能な開発のための教育（ESD = Education for Sustainable Development）（※）」の理論と実践について学ぶことを目的としたESDサブコースを設置しています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成を目指しています。海外へのスタディツアーや国際会議への参加を促すプログラムや、ESDに関連する多領域の研究に幅広く接する授業、外国語でのコミュニケーションに馴染む授業などによって構成されています。このサブコースの修了生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

※地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD（Education for Sustainable Development）といいます。



カリキュラム構成

		1年次	2年次
研究科共通科目 人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる深い学識の涵養を図るために、すべての学生が履修する共通のコア科目		ヒューマンコミュニティ創成研究 A、B 日本語・日本事情 I-1、I-2、II-1、II-2 ESD研究 1、2 特別研究 I	ESD研究演習 1～4 特別研究 II
専攻共通科目 総合的かつ高度な専門的学識の涵養を図る	人間発達専攻	人間発達総合研究 I-1、2 人間発達研究 グローバルリサーチ演習	
	人間環境学専攻	グローバルリサーチ演習 サイエンスコミュニケーション演習 インターンシップ IA、IB、IC	
専攻専門科目 諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる能力を身につける	人間発達専攻	人間発達専攻の主な専攻専門科目については、p.15をご覧ください	
	人間環境学専攻	人間環境学専攻の主な専攻専門科目については、p.21をご覧ください	
修士論文 各専門領域において諸課題を捉え、実践的に解決できる専門的学識と実践能力を身につける			

学位取得のプロセス

- 前期課程2年10月…………… 修士論文題目の提出（16単位以上の修得が必要）
- 前期課程2年 1月…………… 修士論文の提出
- 前期課程2年 2月…………… 最終試験

修了要件

所定の期間内において、研究科で定められた授業科目を履修して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査および最終試験に合格しなければならない。

修士論文題目

修士論文の例については、各専攻のページ（人間発達専攻はp.16～19、人間環境学専攻はp.22～25）を参照してください。過去の修士論文題目については、次のページをご覧ください。



カリキュラム 博士課程後期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成を目指しています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身につけます。

教育・研究のポイント

専門力量を深化させる教育

各専攻の専門科目において、高度な研究能力や諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる専門的力量、また多様な研究分野を俯瞰し、あらゆる研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を修得します。

実践的研究能力に磨きをかける教育

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展を目指します。研究科共通科目「特別研究Ⅳ」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際レベルの論文作成能力を養成します。

体系的な博士論文作成指導システムの提供

後期課程の3年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文、公開最終試験）を採用しています。

実践的な教育力の開発支援

大学教員を目指す学生に対して、学部教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」を設置し、実践的な教育力の開発を支援します。



カリキュラム構成

	1年次	2年次	3年次
研究科共通科目 研究を自立して行う能力や人間の発達に関する共同研究や学際研究を企画・組織する能力、また大学教員としての教育力を涵養する	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅳ	教育能力養成演習
専攻共通科目 多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を涵養する	人間発達総合研究Ⅱ-1、2 (人間発達専攻のみ)		
専攻専門科目 各研究分野に関連した高度な研究能力や諸課題を専門分野に根ざして実践的に解決できる専門的力量、また多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を修得する	主な専攻専門科目については、各専攻のページ (人間発達専攻はp.15、人間環境学専攻はp.21)をご覧ください		
博士論文			

学位取得のプロセス

- 後期課程1年 4月末…………… 博士論文構想の提出
- 後期課程1年 2月末…………… 基礎論文の提出
- 後期課程2年 3月…………… 基礎論文の審査
- 後期課程3年10月1日まで …… 予備審査論文の提出
- 後期課程3年10～11月 …… 予備審査論文の審査
- 後期課程3年 1月17日まで … 博士論文の提出
- 後期課程3年 2月…………… 博士論文の公開、審査、最終試験

修了要件

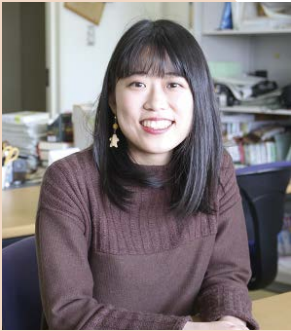
研究科で定められた授業科目を履修して14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士論文の題目



大学院生の研究活動

前期課程



1歳6か月児健診での、
親の傷つきを考える

櫻井梨菜

所属：人間発達専攻 心理系（臨床心理学コース）前期課程2年
研究分野：臨床心理学

現状の1歳6か月児健診においては、わが子が健診でひっかかること自体や、専門職からかけられる言葉などによって、親御さんが深く傷ついてしまうケースが一定数存在しています。私は、傷ついた親御さんが、傷つきから回復するために有効な支援方法や、そもそも不必要な傷つきを引き起こさない健診のあり方などについて、研究をしています。研究や実習を通して、「専門職として提供する援助が、本当に相手に寄り添ったものになっているのか？」「相手の心に寄り添うとはどういうことか？」と日々深く考えさせられます。これらの問いは、将来、臨床心理士および公認心理師として働く上でも、常に持ちつつきたいと思っています。



インクルーシブな
舞踊創作実践と研究

森田 加津世

所属：人間発達専攻 表現系 前期課程2年
研究分野：表現・舞踊

私は障害のある人の舞踊創作について研究をしています。現在、日本国内外でインクルーシブダンスと呼ばれる障害者と健常者が混ざっての創作活動が目立ち、多数展開されています。障害のある人となない人がどのように異なる身体と向き合い、違いや共通点を共有し、舞踊創作をしているのか。実際の現場での創作活動から、異なる身体を横断する可能性を探りたいと思っています。そして私自身、ダンサーとして現在も活動しています。自分の経験してきたことも含めより深く学び、言語化したいという想いから大学院への進学を選びました。実践者として当事者だからこそ見える視点を大切に、学際的な側面をあわせ持ちながら研究を進めていきたいと考えています。



「歩行」を通して
人々を健康に

宮寺伶央

所属：人間発達専攻 行動系 前期課程2年
研究分野：運動生理学

私の研究は、針金ハンガーを頭に被ると頭部が回旋してしまう「ハンガーリフレックス」という現象をヒントにして、身体に触られたり引っ張られたりすることを感知する「皮膚感覚」の変化が立位姿勢や歩行に与える影響を明らかにすることです。この研究で得られた知見を社会に還元することで、高齢者を始めとした人々の転倒予防に役立てたいと考えています。そのために、高齢者福祉が発展しているオーストラリアで交換留学を行い、運動を補助するウェアラブルデバイスの研究や、福祉制度の歴史について学びました。少子高齢化により健康問題への注目が集まる近年において、人々の健康の一助となる研究にしたいと思っています。



「良い先生」を
どう育てるか

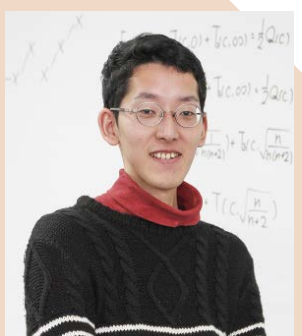
浅井七海

所属：人間発達専攻 教育系 前期課程2年
研究分野：教育学、教育行政学

私は「大学における教員養成課程」に注目しながら、教育とはどうあるべきか、そして教員はどうあるべきかという理念の再構築に向けて研究しています。その中でも特に、教員養成課程において「良い先生」を育てるシステムづくりが最終的な目的です。わが国では、誰しも少なからず「学校」という場に関わることになります。ここに対しては肯定的な意見も否定的な意見もあり得ます。また、そこには多様なニーズが潜みます。しかし、そのニーズを満たすことが直接教育の改善につながるとは限らず、そこが研究の難しいポイントだと感じています。その葛藤の克服、多様なニーズと教育の理念の調和を果たし、よりよい教員養成のシステムを構築することを目指したいです。

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達およびそれととりまく環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応出来る行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。

後期課程



様々なデータに 理論的評価を

西本有希

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系 前期課程2年
研究分野：数理統計学

私の研究テーマは「ウィリアムズ法の保守的検定の構築」です。ウィリアムズ法は新薬開発における用量設定の場面で用いられる統計的手法です。このとき、欠測値（測定が欠けること）が起こることがあります。このような場合にも適用できる理論的方法を研究しています。現在は生物統計分野のデータ分析手法を研究していますが、それと並行して卒業研究のテーマでもある「YouTube上に挙げられている動画視聴データ解析」も継続しています。このような種々のデータを扱った経験を活かして、将来はこれまで以上に幅広い分野のデータに対して理論的に評価し、問題解決を行うコンサルタントやデータアナリストなどの職業に就きたいと考えています。



途上国の貧困問題と SNSでつながる時代

早瀬 玖美子

所属：人間環境学専攻 環境形成科学系 前期課程2年
研究分野：途上国開発支援

先進国に暮らす私たちは、途上国の貧困に対してどのようにして関心を抱くのでしょうか。私は関心を抱くためのツールとして、SNSに注目しています。例えば、SNSを活用した途上国支援キャンペーンが昨今行われているをご存知でしょうか。途上国の抱える問題について情報を拡散したり、キャンペーンのハッシュタグをつけて投稿したりする数に応じて、主催団体が支援を行います。このようにキャンペーンをきっかけにして人々が途上国の問題を知り、関心を抱くことが支援につながる可能性について私は研究しています。社会環境コースの授業では専門分野の本を読むことも多く、広い視野を持って得た知見を自分の研究にフィードバックしています。



社会における 「発達障害」概念を 探して

谷口あや

所属：人間発達専攻 心理系 後期課程2年
研究分野：発達心理学、社会心理学、特別支援教育

発達障害という言葉は近年急速に知られるようになってきましたが、十分な理解が浸透しているとは言いがたいのが現状です。こうした中で、言葉だけが独り歩きし、人々が個人の持つ多様な障害認識を「発達障害」という言葉に当てはめてしまう可能性が考えられます。そこで私は、「発達障害」という言葉を人々はどのように捉え、社会的にどのような役割を与えているのか？という問いの下、社会における「発達障害」概念を研究しています。これまで多くの研究は当事者や支援者を対象としてきましたが、共生社会の実現に向けては、社会からの視点も欠かせないものと考えています。将来的には、支援や教育の場に研究成果を還元できる研究者になることを目指しています。



環境 DNA を 研究する

徐 寿明

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系 後期課程3年
研究分野：環境DNA学、分子生態学、保全生態学

水域における非侵襲的かつ効率的な生物モニタリング手法として、「環境DNA分析手法」が近年急速に発展しています。一方で、環境DNAの性質や動態といった基礎的な知見は現状不足しています。こうした環境DNAの基礎情報の理解は、結果の適正な解釈や新たな技術の開発のために極めて重要です。環境DNAとは何なのか、すなわち「環境DNAを研究する」ことが、私の主な研究テーマです。もともと文科系で入学した私が、今では国内外の様々な学会に参加し、国際的な査読誌にも論文を掲載し、生態学者を本格的に志すようになりました。この研究科でなければ、こうした生き方の多様性を受け入れてはくれなかったでしょう。皆様のご入学を心よりお待ちしております。

※ 所属は、対応する教育組織改変後の教育研究分野（p.2を参照）を記載しています。

学術交流 領域を超えた学生主体の研究実践

人間発達環境学研究科では、多様な専門領域における実績を土台に、人間の発達及びそれを支える環境に関わる特色ある実践的な学際共同研究を推進しています。学生はこれらの研究に主体的に参加するほか、これに伴って行われる多くのシンポジウムや研究集会などの学術交流の開催に積極的に加わります。国内外の多様な専門家との議論や異なる分野の取り組みへの参加を通じた学際性の経験を、自らの研究に活かしていきます。

学術Weeks

本研究科の国際交流推進の一環として学術Weeksを設置し、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。教員のみならず、大学院生や学部生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを習得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。



主な学術Weeks企画イベント（2019年度開催）

- ◎「アメリカ・ワシントン州における保育の質の維持・向上システム」講演会・トークセッション・情報交換会
- ◎ESDに関する実践者・研究者の普段着の集い 第4回ESD実践研究集会「続・大研究SDGs」
- ◎発展途上国における教育の質を向上させる初等教育の取り組み——学校環境・学校保健活動の観点から
- ◎音楽文化のトランスボーダー Vol.5 青野原収容所俘虜の記憶を辿る
- ◎環太平洋特別支援教育シンポジウム
- ◎学生のための睡眠セミナー 眠りの活用術
- ◎サイエンスコミュニケーションの未来
- ◎「共生教育」を考える（3）：
日本における「共生教育」カリキュラム創造に向けた課題を探る
- ◎まともがゆれる：インクルーシブ社会の脱力的拡張
- ◎即興演奏を考える

アメリカ・ワシントン州における

保育の質の維持・向上システム 学術Weeks イベント

オーガナイザー

北野幸子（人間発達専攻 教育系）

ワシントン大学（University of Washington）の研究機関「Cultivate Learning（学習開拓）」シニア・ディレクターのシモンズ先生等を招聘し、講演会を開催しました。本研究科の学生と、各地の行政関係者、園長、保育学研究者が、教育の質の維持・向上システムについて学び、活発な意見交換を行いました。保育の無償化や義務教育化が各国で進んでおり、時機にあった実り多い会となりました。



まともがゆれる：

インクルーシブ社会の脱力的拡張 学術Weeks イベント

オーガナイザー

赤木和重（人間発達専攻 心理系）

NPO法人スウィング理事長の木ノ戸昌幸さんをお招きしました。この研究会を企画したのは、木ノ戸さんの『まともがゆれる』という本を読んで、一目惚れしたからです。当日は、「親の年金でキャバクラ展」といったユニークな実践のお話を伺いながら、様々な人々が様々な形で参加できる社会のありかたについて考えました。それぞれのまともや常識をゆらされ、新たな研究の方向性を構想するきっかけになりました。



人間発達専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、本研究科の教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制「研究道場」を整備しています。道場特別講義等を通して、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を修得するようにします。

主な研究道場特別講義（2019年度開催）

- ◎三木市における教育委員会の仕組みと試み
- ◎兵庫県下における臨床発達心理士による発達相談・発達支援の具体と事例
- ◎大崎上島の島おこしと高校魅力化プロジェクトの取り組み
- ◎オランダの教育
- ◎発達理論と Processology
- ◎マラウイの教育
- ◎福祉事業型「専攻科」エコールKOBEで学ぶ私たち
- ◎草津市における発達支援
- ◎子どもをどう理解するか——生活を綴り、読み合い、育ちあう子どもたち
- ◎障がいのある子ども・青年の権利保障のあゆみと運動
- ◎鳥取県南部町における地域協働学校の取り組みと様々な挑戦
- ◎IT導入によって数学の教授・学習は本当に変わるのか？：動的幾何環境の場合
- ◎アダプティブ・ラーニングにおける教育コンテンツの効果的な活用
- ◎教科教育研究の根源的な問いについて考える——理科教育の事例から
- ◎ICT技術を応用した身体化デザインの成果と課題
- ◎高校生・若者パネル調査からの示唆
- ◎学術Weeks企画シンポジウム サイエンスコミュニケーションの未来
- ◎他者との協働を通じて科学的思考を育む理科授業
- ◎イギリスの初等教育と子ども・家族支援



イギリスの初等教育と 子ども・家族支援 研究道場イベント

オーガナイザー
川地 亜弥子（人間発達専攻 教育系）

イングランドの初等教育、子育て支援について基礎的な情報を共有した上で、現代の子育て支援団体の具体的な取り組みについて議論しました。困難な状況をいかに打開していくかという観点から、特に、当事者と専門家との連携、当事者から専門家への移行、支援の継続性について議論を行いました。日英の課題の共通点と相違点を明確にしなが、問題分析、場所・予算の確保、自治体との関係、継続性等について、研究成果を踏まえ活発に交流しました。



本研究科では、1年を通して、多くの研究者を招き、様々な学術交流を行っています。

Well-beingと未来世紀都市学 レジリエント社会を目指したヒューマン・ネットワークの構築

オーガナイザー
近藤徳彦（人間発達専攻 行動系）
和泉 比佐子（神戸大学 大学院保健学研究科）

神戸大学では、震災を契機に防災・減災に係る学際研究を進め、現在、百年後まで持続可能な都市をつくるための研究として、学術領域「未来世紀都市学」の開拓に取り組み、未来世紀都市を支える多様な人々のwell-being（人々の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活）を実現するための研究を行っています。今回は、日々の生活、あるいは災害時・災害後の人々の繋がりや人々への支援という視点から、学内外の専門家を招き、議論を深めました。



Pick Up
シンポジウム

社会貢献・地域貢献 大学と社会をつなぐプラットフォーム「発達支援インスティテュート」

人間発達環境学研究科の附属研究施設である発達支援インスティテュートは、「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティの創成および社会貢献に資すること」を目的とし、本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つのユニットから構成されています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center>



ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。

活動例

ESD（持続可能な開発のための教育）ネットワーク支援プロジェクト

ESDに関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進します。北東日本大震災の被災地の支援活動やハンセン病療養所邑久光明園の協力のもとで「持続可能な島づくりプロジェクト」等を実施しています。

障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペース あーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、障害のある人々を排除しないインクルーシブな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

農村部における自然共生社会の探求

人と動物たちが共生できる社会を目指して、野生動物管理という生態学的な観点と、私たちの暮らし方を見直すという社会教育的な観点の両面から、研究と実践を行っています。

ジェンダー・コミュニティを考える哲学対話プログラム

女性・シングルマザーの支援をしているNPOや「のびやかスペース あーち」にて哲学カフェを開催しています。日常生活で抱えているジェンダー問題をテーマに対話しています。

心理教育相談室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/psycli>



心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と臨床心理士、公認心理師養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース（前期課程）の大学院生が臨床心理士の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。

活動例

臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約1000件の相談面接を実施しています。

臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員はスクールカウンセリング、各種研修会における講師等、さまざまな地域貢献・社会貢献活動をおこなっています。また、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター「のびやかスペース あーち」において相談室主催の子育て支援セミナーを毎年開催しています。

サイエンスショップ

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop>



サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家（科学者、技術者など）の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。

活動例

社会における市民の科学活動支援

サイエンスカフェは、街のカフェなどで、科学者等の専門家と市民が科学・技術などに関する話題について語るイベントです。「サイエンスカフェ神戸」を開催するほか、兵庫県内を中心に各地で市民によるサイエンスカフェの企画・開催を支援しています。



教育連携推進室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/coedu>



近年、大学に対して期待する声が高まっている、初等中等教育との連携に係る社会貢献へ要望と、本研究科に長年にわたり蓄積された学問的成果を踏まえ、教育連携推進室は、高等学校をはじめ小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と協力し、高大連携事業の推進や、初等中等教育に対する支援および学校教育・社会教育における連携事業を行っています。

活動例

参画型実践研究を基盤とする 高度教員養成プログラム

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成は極めて重要な課題であり、その解決に資するため、附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究を通して、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。



アクティブエイジング研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/kaarb>



人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関（WHO）が掲げる「アクティブエイジング（活力ある高齢化）」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、この研究のアジアのHubを目指しています。

活動例

- 鶴甲いきいきまちづくり——アクティブエイジングを目指して
- 住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立
- 高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト
- 関西ワールドマスタースゲームズ2021レガシー創造支援研究
- 高齢期の認知・感情・意思決定に関する研究
- サードエイジのサクセスフル・エイジング・モデル構築プロジェクト
- 活動的な生活習慣と健康増進プロジェクト
- アクティブライフ評価と健康寿命の延伸・認知症予防対策
- 更年期女性の身体的変化と心理的適応
- 高齢者の住まい方とエネルギー消費との関係性に関する調査
- 高齢・持ち家社会における住宅相続の増大と階層化



人間発達専攻

人間発達講座

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識および創造的な研究能力を持つ自立した研究者、または研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、心理系、表現系、行動系、教育系という各系の方法および視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。

本専攻では、包摂する学問領域の広さから、修了生は多彩な進路で活躍することが期待されます。いずれの進路をとるにせよ、人間発達にかかる豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることが期待されます。前期課程では、人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。また、後期課程では、自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、コミュニティ創成の研究を主体的に展開できる研究者や大学教員を養成します。

教育研究分野

心理系

心理学を総合した観点から、心身の発達や健康、その促進・阻害要因の探究と複雑な相互関係の把握に努め、広い視野と深い専門性をもって人間発達の様相を追究します。

◎発達障害心理学、発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害臨床学、臨床心理学、カウンセリング、発達臨床心理学、健康心理学、精神生理学

行動系

行動系分野では、人が生涯を通して健康で活動的な生活を送るために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達と加齢などに関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

◎公衆衛生学、運動生理学、運動生化学、応用生理学、身体システム学、スポーツバイオメカニクス、運動・スポーツ心理学、体育・スポーツ史、加齢の身体運動科学、社会老年学、加齢の認知心理学、レジャー・スポーツ老年学、老年行動学

表現系

人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、表現実践を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

◎表現創造（舞踊学、音楽療法、即興演奏、美術・絵画表現）
◎表現文化（音楽文化史、民族音楽学、近代建築史、ファッション文化論、社会情報学、認知科学）

教育系

教育および学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるところおよび諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

◎教育科学（科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、日本教育史、西洋教育史、教育哲学）
◎子ども発達（身体発育論、数理認識論、児童文学、美術教育学、発達心理学、家族関係学、乳幼児教育学）
◎発達支援（生涯学習論、社会教育論、障害共生支援論、ボランティア学習論、ジェンダー論、自然共生論）

履修コース（前期課程のみ）

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験および公認心理師試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

取得可能な資格免許

幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、高等学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、特別支援学校専修免許状、臨床心理士試験受験資格（※1）、公認心理師受験資格（※1）（※2）

発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

修了後の進路

資格免許の取得状況



※1 臨床心理学コースのみ

※2 学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります。

カリキュラム（主な専攻専門科目）

教育研究分野	前期課程	後期課程
心理系	臨床心理検査特論 I-1, 2（心理的アセスメントに関する理論と支援の展開1, 2） 発達障害心理学特論 I-1, 2（教育分野に関する理論と支援の展開1, 2） 芸術療法特論 I-1, 2 健康教育学特論 I-A, B（心の健康教育に関する理論と実践1, 2） 心理療法特論 I-1, 2（心理支援に関する理論と実践1, 2） 人格形成特論 I-1, 2 教育発達心理学特論 I-1, 2 自己形成特論 I-1, 2 心理統計法特論 人間発達特論 I-1, 2 健康行動科学特論 I-1, 2（心の健康教育に関する理論と実践1, 2） 臨床心理学特論 I-1, 2 臨床人間関係学特論 I-1, 2（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践1, 2） 発達障害臨床学特論 I（福祉分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理実習 I-1, 2（心理実践実習 II） 心理実践実習 I 臨床心理基礎実習 1, 2 臨床心理実践演習 A-1, 2（福祉分野に関する理論と支援の展開1, 2） 精神医学特論 1, 2（保健医療分野に関する理論と支援の展開1, 2）	臨床心理検査特論 II-1, 2 発達障害心理学特論 II-1, 2 芸術療法特論 II-1, 2 健康教育学特論 II-A, B 心理療法特論 II-1, 2 人格形成特論 II-1, 2 教育発達心理学特論 II-1, 2 自己形成特論 II-1, 2 発達障害臨床学特論 II-1, 2 人間発達特論 II-1, 2 健康行動科学特論 II-1, 2 臨床人間関係学特論 II-1, 2 臨床心理学特論 II-1, 2 臨床心理実習 II-1, 2
表現系	[表現創造] 音楽療法特論 I-1, 2 現代絵画特論 I-1, 2 舞踏表現特論 I-1, 2 [表現文化] 建築文化史特論 I-1, 2 ファッション文化特論 I-A, B 音楽文化史特論 I-1, 2 音楽民族学特論 I-A, B 感性研究特論 I-1, 2 メディア情報社会特論 I-1, 2	[表現創造] 音楽療法特論 II-1, 2 現代絵画特論 II-1, 2 舞踏表現特論 II-1, 2 [表現文化] 建築文化史特論 II-1, 2 音楽文化史特論 II-1, 2 音楽民族学特論 II-A, B メディア情報社会特論 II-1, 2 感性研究特論 II-1, 2 ファッション文化特論 II-A, B
行動系	スポーツ文化史特論 I-1, 2 身体運動制御特論 I-1, 2 身体システム特論 I-1, 2 身体コンディショニング特論 I-1, 2 運動心理学特論 I-1, 2 身体運動処方特論 I-1, 2 スポーツバイオメカニクス特論 1, 2 スポーツ指導法特論 1, 2 健康増進科学特論 I-1, 2 身体機能加齢特論 I-1, 2 行動適応特論 I-1, 2 スポーツジェロントロジー特論 I-1, 2 エイジング特論 I-1, 2 身体機能調節特論 I-1, 2 健康行動加齢特論 I-1, 2	スポーツ文化史特論 II-1, 2 身体運動制御特論 II-1, 2 身体システム特論 II-1, 2 身体運動処方特論 II-1, 2 身体コンディショニング特論 II-1, 2 運動心理学特論 II-1, 2 健康増進科学特論 II-1, 2 身体運動技術特論 1, 2 身体機能加齢特論 II-1, 2 エイジング特論 II-1, 2 身体機能調節特論 II-1, 2 スポーツジェロントロジー特論 II-1, 2 健康行動加齢特論 II-1, 2 行動適応特論 II-1, 2
教育系	[教育科学] 科学教育カリキュラム特論 I-1, 2 日本語・日本事情 I-1, 2 日本語・日本事情 II-1, 2 教育方法学特論 I-1, 2 日本教育史特論 I-1, 2 科学教育原理特論 I-1, 2 教育制度特論 I-1, 2 社会認識教育内容特論 I-1, 2 西洋教育史特論 I-1, 2 [子ども発達] 数理認識発達特論 I-1, 2 乳幼児教育保育特論 I-1, 2 乳幼児発達特論 I-1, 2 身体運動発達特論 I-1, 2 家庭保育特論 I-1, 2 児童造形表現特論 I-1, 2 児童文学表現特論 I-1, 2 [発達支援] ジェンダー文化学習特論 I-1, 2 ジェンダー・コミュニティ支援論 1, 2 社会教育・サービスラーニング支援論 1, 2 発達支援技術論 1, 2 生涯学習支援特論 I-1, 2 自然共生地域支援論 1, 2 自然共生地域支援特論 I-1, 2 インクルーシヴ社会支援論 1, 2 エンパワメント支援特論 I-1, 2	[教育科学] 科学教育カリキュラム特論 II-1, 2 教育方法学特論 II-1, 2 日本教育史特論 II-1, 2 科学教育原理特論 II-1, 2 教育制度特論 II-1, 2 社会認識教育内容特論 II-1, 2 西洋教育史特論 II-1, 2 [子ども発達] 数理認識発達特論 II-1, 2 乳幼児教育保育特論 II-1, 2 乳幼児発達特論 II-1, 2 身体運動発達特論 II-1, 2 児童造形表現特論 II-1, 2 家庭保育特論 II-1, 2 児童文学表現特論 II-1, 2 [発達支援] ジェンダー文化学習特論 II-1, 2 自然共生地域支援特論 II-1, 2 エンパワメント支援特論 II-1, 2 生涯学習支援特論 II-1, 2

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



心理系

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程（臨床心理学コースを含む）での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることでできる人材を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

相澤直樹 准教授 *

臨床心理学、臨床心理検査（投影法）

青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

赤木和重 准教授

発達障害心理学

自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

安達友紀 助教 *

臨床心理学、慢性痛

臨床心理学の立場から慢性痛をもつ人のより良い理解と支援について研究しています。集学的治療、認知行動療法、催眠等がテーマです。

伊藤俊樹 准教授 *

臨床心理学、芸術療法

芸術療法や心理療法におけるクライアントのイメージの変化、ロールシャッハテストを用いた芸術家の創造性の研究を行っています。

加藤佳子 教授 *

健康心理学、健康教育

心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河崎佳子 教授 *

臨床心理学、発達臨床心理学

聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

齊藤誠一 准教授

生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学

思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。

坂本美紀 教授

教育心理学

児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷冬彦 准教授

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

鳥居深雪 教授 *

発達障害臨床学

発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

林 創 准教授

発達心理学、教育心理学

幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授 *

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

吉田圭吾 教授 *

臨床心理学、スクールカウンセリング

中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

* 臨床心理学コースを担当

* 発達支援1年履修コースを担当

[修士論文の例]

- 「仲良くなりたい」自閉症スペクトラム障害者の自己開示——定型発達者との比較を通して
- 自己愛の無関心型および過敏型と攻撃性との関連について
- 大学生の領域自尊感情の検討
- 青年期における就職活動前に生じる不安と対処方略および精神的健康との関連の検討
- 児童は日常的な場面をどのようなストーリーとして捉えるか——絵カード配列課題の説明を通して
- ASD児の認知特性と日常場面の適応行動の関連——WISC-IVとVineland-IIの分析を通して
- 発達障害者のきょうだいのスティグマに関する研究——多面的調査ときょうだいの体験から
- 自己愛の無関心型および過敏型と攻撃性との関連について
- 青年期における母娘関係と境界例心性——箱庭を用いて箱庭の投影法的利用の検討
- 描画を通した精神科入院児の心理的支援に関する研究



表現系 表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、およびコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

[専門分野と研究テーマ]

岡崎香奈 准教授

音楽療法、即興演奏

即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

関典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

[修士論文の例]

- 臨床現場における音楽療法士の聴取技能——インタビューの質的分析から
- コンテンポラリーダンスにおける振付創作プロセス——上演場所で創作された作品を対象に
- 「日本」を主題とした村上隆のスーパーフラットが持つ意味と広がり
- 未来派オペラ「太陽の征服」の美術装飾——画家におけるパフォーマンスの重要性
- 洋楽導入初期における歌曲概念と瀧廉太郎作曲《花》——『音楽雑誌』を中心に

表現系 表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

[専門分野と研究テーマ]

梅宮弘光 教授

近代建築史

近代建築史、都市史。日本の近・現代に、人びとが建物や街についてどんなことを考え、何をつくってきたのかを探っています。

谷正人 准教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

野中哲士 教授

認知科学、生態心理学

わがが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

大田美佐子 准教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

平芳裕子 准教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

[修士論文の例]

- 戦後日本のファッションを取り巻く言説空間の変容——雑誌メディアにおける「ファッション論」の生成と消費
- 合唱練習における指揮者と演奏者間の意図の共有プロセス
- 内モンゴル農村地域におけるインターネット普及に伴う生活スタイルの変化に関する考察
- 音楽と視覚芸術の交差——エリック・サティの音楽をめぐる一考察
- 神戸市の震災復興過程における都市環境の変容に関する研究



行動系

少子高齢化した現代社会において、私達は多様化・複雑化した多くの課題に直面しています。自らが自立して生きがいと幸福感を持ち、活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達とエイジングなどに関わる様々な課題について、多角的・学際的観点からアプローチし、人間行動に関する高度な知識と多様な研究手法を修得して、問題解決できる能力を育成します。

[専門分野と研究テーマ]

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 助教

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

岡田修一 教授

加齢の身体運動科学

高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

河辺章子 教授*

運動生理学（身体運動制御）

随意運動の制御機構を探求し、ヒトの動作の巧みさを探るとともに、巧みな動作の獲得過程を解明し、スキル向上への貢献を目指しています。

木村哲也 准教授

身体運動システム論

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授

スポーツ生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行っています。

高田義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディショニングやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探求しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探求しています。

中村晴信 教授

公衆衛生学、行動医学、生理人類学

生活習慣と疾病予防・健康増進との関係を、体格・体組成や食行動に着目し、心理・生理・行動面から総合的に研究しています。

原田和弘 准教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを旨とし、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 准教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

* 2021年3月退職予定

[修士論文の例]

- 子どものスポーツ政策に関する国際比較研究——日本とニュージーランドの比較を通して
- 走運動における走速度と足の着地様式の関係
- 精神性ストレスが安静時および運動時の動的な体温調節反応に及ぼす影響
- 自閉症スペクトラム障害者のエピソード記憶に関する研究——符号化処理とソースモニタリングに着目して
- マスターズスポーツにおけるイベントマネジメントの日豪比較：EMBOKモデルの領域（Domains）を援用して
- 中央競技団体における統合・インクルージョンに関する研究：障害者スポーツに着目して
- 野球におけるバットの特性と打撃パフォーマンスの関係に関する研究——バットの重心位置及び長さが打撃に及ぼす影響
- 認知バイアスにおける加齢の影響：オプションフレーミング課題による検討
- 循環・立位バランス両調節システム協働効果の検討
- 大型スポーツイベント開催による組織間ネットワークの形成過程に関する研究——関西広域参画組織に着目して

教育系 教育科学

社会が直面する様々な教育課題を対象とした教育科学研究を行います。高度な専門知識や技術を有し、リーダーとして貢献できる研究者、教員、教育行政職等を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

稲垣成哲 教授 科学教育

科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。

奥山和子 講師*

日本語教育、留学生教育、異文化間教育
留学生や外国人児童の日本での適応やキャリア形成の問題、また日本人学生の海外留学研究など異文化に関する研究をしています。

川地亜弥子 准教授 教育方法学

人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

船寄俊雄 教授

日本教育史、教育学
明治維新以降のわが国における小学校教員の歴史、小学校教員と中等学校教員の養成制度の歴史を研究しています。

山口悦司 准教授 科学教育

人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 准教授

教育制度論、教育経営学
現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的關係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

吉永潤 教授 社会認識教育論

社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。

渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学
20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

[修士論文の例]

- 兵庫県の公立高等学校入学試験における総合選抜制度の歴史研究——西宮学区の制度衰退から廃止に着目して
- 教育改革者としてのルードヴィヒ・グーリット——初期ヴァンダーフォークへの関与に着目して
- 科学技術の社会問題を題材とした教育プログラムの開発と評価：他者の視点取得を活用した提言作成能力の育成を目指して

* 2021年3月退職予定

教育系 子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

[専門分野と研究テーマ]

岡部恭幸 教授 数理解論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理解論についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

北野幸子 准教授

乳幼児教育学、保育学
乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授 発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

國土将平 教授

身体発達発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定
子どもの身体の発達や健康、体力、運動能力・動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育や生活環境との関係を探っています。

勅使河原 君江 准教授 美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 准教授

保育学、家族関係学
認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

長谷川 諒 特命講師* 音楽教育学、音楽教育哲学

サウンドペインティングと呼ばれる即興演奏に注目し、既成の美の基準に囚われずに音楽することの意義について研究しています。

目黒 強 准教授

児童文学、国語教育
近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

* 2020年9月退職予定

[修士論文の例]

- 小学校図形領域における演繹的推論についての研究——仮言的三段論法と普遍例化に焦点を当てて
- 小学校国語教科書における物語文教材の文体に関する研究
- 絵本におけるお姫様像の文明化と転覆

教育系 発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

[専門分野と研究テーマ]

稲原美苗 准教授*

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

清野未恵子 准教授*

自然共生社会、野生動物管理、ESD
農山村地域の人と野生動物の共存を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

津田英二 教授*

生涯学習論、障害共生支援論
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追う実践的研究を行っています。

松岡広路 教授*

社会教育論、福祉教育・ボランティア学習論
ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育および福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

[修士論文の例]

- 市民の公共性涵養に寄与するNPO中間支援組織の今後の役割と課題——エンパワメント型支援についての考察
- 社会構造の変化に伴う社会福祉の現場の変遷と課題
- 子育て中の女性のキャリア形成支援——子供が小学生になる危機に着目して

* 発達支援1年履修コースを担当

人間環境学専攻

人間環境学講座 環境先端科学講座(連携講座)

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。

本専攻の修了生は、人間環境に関わる豊富な専門知識とそれを応用する能力をもとに、実践的に行動する力を有し、多様な進路で活躍することを期待されます。前期課程では、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど、多様な分野で活躍できる人材を養成します。後期課程では、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。

教育研究分野

環境基礎科学系

人間の生存・生活に関係する環境の成り立ちを理解し、問題・課題を発見するために、環境汚染、気候変動、生物多様性、情報環境などに関し、自然科学・数理科学にもとづく研究を進めます。

- ◎自然環境論(素粒子物理学、宇宙物理学、惑星環境物理学、地質古生物学、地球化学、分子生物学、生物有機化学、高分子化学、光合成酵素科学、進化生態学、植物生態学、水域生態学、環境バイオテクノロジー)
- ◎数理情報環境論(計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学)

環境形成科学系

人間の発達を支える環境をつくる技術、システム、政策・制度のあり方を探求するために、生活科学・工学・農学・社会科学にもとづき、生活・社会環境に関する幅広い問いに取り組めます。

- ◎生活環境論(生活空間計画、環境保健学、環境リスク学、緑地環境学、環境経済学、環境政策、環境システム工学、食環境学、衣環境学、感性工学、ヒューマンエレクトロニクス)
- ◎社会環境論(社会文化環境論、社会保障、社会政策、途上国政治経済、社会規範論、人文地理学、地域社会論、社会思想)

環境先端科学(後期課程の連携講座)

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探究します。

- ◎大気化学、炭素循環、生物地球化学、マイクロ流体工学、環境分析化学、ナノバイオ計測工学

取得可能な資格免許

中学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、社会)、高等学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、公民)

修了後の進路

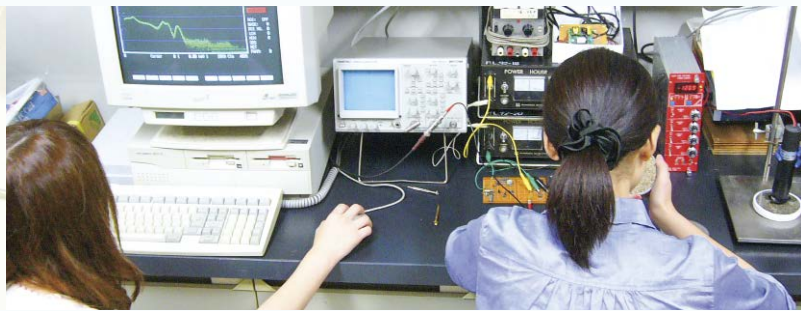
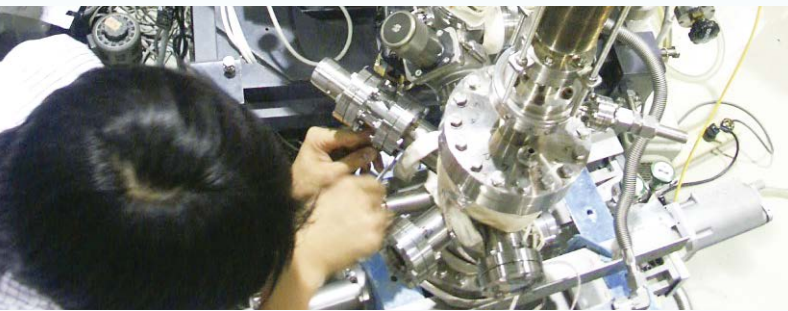
資格免許の取得状況



カリキュラム（主な専攻専門科目）

講座	教育研究分野	前期課程	後期課程
人間環境学	環境基礎科学系	<p>[自然環境論] 粒子物理学特論 I-1, 2 環境光合成科学特論 I-1, 2 宇宙環境物理学特論 I-1, 2 植物多様性特論 I-1, 2 超分子化学特論 1, 2 環境地質学特論 I-1, 2 環境バイオテクノロジー特論 I-A, B 環境有機化学特論 I-1, 2 環境適応科学特論 I-1, 2 惑星環境物理学特論 I-1, 2 環境分子生命科学特論 1, 2 環境基礎物質科学 B-1, 2 環境基礎物質科学 C-1, 2 環境基礎生命科学 A-1, 2 環境基礎生命科学 B-1, 2 自然環境先端科学 A</p> <p>[数理情報環境論] 統計推測特論 1, 2 非線形数理特論 I-1, 2 統計解析特論 1, 2 情報論理学特論 I-1, 2 数式処理特論 I-1, 2 応用幾何学特論 I-1, 2</p>	<p>[自然環境論] 粒子物理学特論 II-1, 2 環境光合成科学特論 II-1, 2 宇宙環境物理学特論 II-1, 2 植物多様性特論 II-1, 2 生体超分子化学特論 1, 2 環境地質学特論 II-1, 2 環境有機化学特論 II-1, 2 環境バイオテクノロジー特論 II-A, B 環境適応科学特論 II-1, 2 惑星環境物理学特論 II-1, 2</p> <p>[数理情報環境論] 統計の多重比較特論 1, 2 非線形数理特論 II-1, 2 応用統計解析特論 1, 2 数式処理特論 II-1, 2 応用幾何学特論 II-1, 2 情報論理学特論 II-1, 2</p>
	環境形成科学系	<p>[生活環境論] 衣環境特論 I-A, B 植物環境学特論 I-A, B 生活環境共生特論 I-1, 2 生活環境共生特論 I-A, B 食環境学特論 I-A, B 電子応用機能特論 I-A, B 生活空間計画特論 I-A, B 健康環境科学特論 I-1, 2</p> <p>[社会環境論] 社会変動特論 I-A, B 産業社会構造特論 I-A, B 労働社会論特論 I-A, B 国際社会構造特論 I-A, B 農村地域構造特論 I-A, B 社会環境思想史特論 I-A, B</p>	<p>[生活環境論] 衣環境特論 II-A, B 植物環境学特論 II-A, B ライフスタイル特論 II-A, B 食環境学特論 II-A, B 生活環境共生特論 II-A, B 電子応用機能特論 II-A, B 生活空間計画特論 II-A, B 健康環境科学特論 II-1, 2</p> <p>[社会環境論] 社会変動特論 II-A, B 国際社会構造特論 II-A, B 農村地域構造特論 II-A, B 産業社会構造論特論 II-A, B 労働社会論特論 II-A, B 社会環境思想史特論 II-A, B</p>
環境先端科学 (後期課程のみ)	環境先端科学		大気環境科学特論 A, B 環境ストレス科学特論 A, B 生物地球化学特論 A, B 生体環境先端計測特論 A, B

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



環境基礎科学系 自然環境論

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

[専門分野と研究テーマ]

青木茂樹 教授

素粒子・宇宙線物理学

ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。

蘆田弘樹 准教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学

植物などの光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産への応用について研究しています。

伊藤真之 教授

宇宙物理学、科学教育

人工衛星等による観測に基づく宇宙の研究や、科学技術領域における市民のエンパワーメントに関する実践研究等を行っています。

丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学

花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 准教授

生物有機化学

生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授

古環境学、地質古生物学、水環境学

地球環境の長期変動のメカニズム解明に向けた海洋古環境の研究と兵庫県内の河川の水循環の研究を行っています。

近江戸 伸子 教授

環境資源植物科学

資源植物の機能性、遺伝特性、環境適応性について、ゲノム・染色体・遺伝子についての研究を行っています。

窪田 薫 助教

古気候・古海洋学、炭素循環

海洋生物の殻や骨格に保存される微量元素や安定/放射性同位体から過去の情報を取り、気候変動・海洋環境・炭素循環を研究しています。

佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学

環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。

高見泰興 准教授

進化生態学

昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

田中成典 教授

計算生物学、理論生命科学

タンパク質や核酸等の分子シミュレーションやミクロな原子レベルから計算機上で構築する理論生命科学について研究しています。

谷 篤史 准教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学

物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることで、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 准教授

環境生理学、水域生態学、感染症生態学

環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

[修士論文の例]

- 環境DNA分析を用いたため池の生物多様性を規定する要因の解明
- 雄性両全性同株植物ツクサにおける花形態の性的二型——送粉プロセスに着目して
- 交尾器形態の形質置換と交雑コスト回避の検証
- RNA Polymeraseを用いた種々の糖鎖修飾RNAの合成DNAポリメラーゼを用いた糖・鎖修飾DNAの合成およびその酵素的導入における反応速度論解析
- メタン菌 Methanosaeta concilii RuBisCOの酵素的特性の解析
- 低波数ラマン分光法によるコラーゲンモデル化合物の高次構造とその熱挙動
- 「かぐや」ARD観測 210Po α 線による月面ラドンガス放出箇所を検出
- エマルジョンガンマ線望遠鏡による2018年豪州気球実験——姿勢モニター部の開発および多段シフター全面積解析
- ベーリング海における最終氷期の底生有孔虫群集解析
- 微量元素および同位体組成を用いた有馬型温泉水の地球化学的特徴



環境基礎科学系 数理情報環境論

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性を身につけ、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしているが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

[専門分野と研究テーマ]

稲葉太一 准教授

数理統計学、応用統計学、データ解析

統計手法は、適用分野によって異なる側面があります。医学統計の分野における多重比較法の適用範囲を広げる事を研究しています。

桑村雅隆 教授

応用解析学

物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授

数理統計学

株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

長坂耕作 准教授

計算機代数、計算機科学

パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

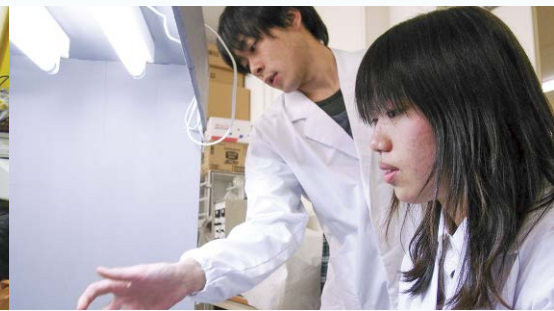
宮田任寿 教授

幾何学的トポロジー

Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学性質（次元など）について研究しています。

[修士論文の例]

- 最適化理論に基づく植物の成長スケジュールについて
- 非同一分布に対する情報量規準の正当性
- 有限体上でのパラメータを含む1変数多項式の因数分解
- タブレットを用いた電子楽譜の課題と可能性の追求
- String models and fractal dimensions
- LMSを用いた中等数学の学習段階の可視化
- 特異摂動法を用いた海の波の解析
- FDR基準による多重検定の適用範囲の考察と改善
- 直交不変推定量を用いた線形判別分析とその誤判別確率の漸近展開
- 有限集合の位相とホモトピー



環境形成科学系 生活環境論

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

井上真理 教授

衣環境学、感性工学

人の主観的な感覚と材料特性から繊維製品を実験的、理論的に解析し、心地よく使える製品を設計し提案する研究を行っています。

大野朋子 准教授

緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授

環境経済学、環境政策論

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

白杉直子 教授*

食環境学

食生活が生み出す環境問題(台所排水の汚濁負荷、肥料による地下水の窒素汚染)に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。

田畑智博 准教授

環境システム工学(土木工学)

私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

平山洋介 教授

生活空間計画

住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいか、という問題を理論と実証の双方から考えています。

福田博也 准教授

生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

* 2021年3月退職予定

[修士論文の例]

- 中高年単身者の生活空間に関する研究
- 都市再開発における社会的批判のコントロールに関する研究
- ジェンダーの視点からみた高齢期の生活空間
- 環境未来都市構想に関する取組の効果と課題の検証
- 超高齢社会の進展が自治体ごみ処理システムにおよぼす環境的影響の評価
- グリーン・コンフリクトを考慮した太陽光発電所の包括的評価
- 兵庫県における森林資源のエネルギー利用可能量の推計
- 六甲山の景観保全に対する観光客の支払意思額の評価
- 自然型再開発リゾート施設の評価と可能性
- 都市緑地における生物多様性オン経済価値評価



環境形成科学系 社会環境論

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、社会学、経済学、政治学、歴史学、地理学、社会思想など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

[専門分野と研究テーマ]

浅野慎一 教授

社会文化環境論、社会学

国境を越えて移動する人々を対象として、歴史に翻弄されながらも、新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。

井口克郎 准教授

社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題

社会保障制度を必要とする人々とそれをになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

岩佐卓也 准教授

社会政策

労働をめぐるルールとそれを形成する労使関係がどのように変容しているのか、日本とドイツを主な対象に研究しています。

太田和宏 教授

途上国政治経済

グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

澤宗則 教授

人文地理学、地域社会論、移民社会論

日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授

社会思想、社会学史

現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原将也 助教

地域研究、地理学

おもにアフリカ農村を対象として、社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人びとの暮らしを住民の視点から研究しています。

[修士論文の例]

- 現代日本における新たな「家族」の可能性
- 地域に生きる子どもの主体性と安心・安全なまちづくり——大阪・千里ニュータウンを事例にして
- 中国モンゴル族における出稼ぎ労働者の生活と意識——内モンゴルの農民・牧民の事例を中心に
- 中国の対外援助の実態——アフリカにおける資源取得と開発効果
- 中国帰国者青少年にみる生活と社会意識
- 場所の喪失と場所への愛着——阪神・淡路大震災を事例に
- 経営者報酬の社会的側面
- 負の遺産の記憶と展示をめぐるダークツーリズム
- ストリートミュージシャンという生き方——自己表現と公共性のはざままで
- 動物と人間の共生——保護・管理・権利の狭間で

環境先端科学 後期課程の連携講座

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

斉藤拓也 准教授

大気化学、生物地球化学

オゾン層破壊や温暖化に関わる大気中のガス状有機物について、自然界からの放出量や変動メカニズムを理解するための研究をしています。

遠嶋康徳 教授

大気化学、炭素循環

大気中酸素量の僅かな変化を測定することにより、地球表層での炭素収支や大気-海洋間のガス交換の解明に係る研究を行っています。

永井秀典 准教授

マイクロ流体工学

単一細胞から遺伝子を高速増幅する技術や、イムノアッセイ等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムの研究を行っています。

脇田慎一 教授

環境分析化学、ナノバイオ計測工学

ナノバイオテクノロジーによるバイオセンサ等の研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証に関する研究を行っています。

主な協定校

神戸大学と人間発達環境学研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術および教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。

交換留学について

学生交流協定を締結している大学との間では、学生交換を行っています。協定校へ交換留学に行く場合、協定校へ授業料を納める必要がなく（留学中の授業料は神戸大学に納める必要があります）、交換留学先で履修した授業科目について、本研究科で単位認定を受けることができます。また、EUの一部の大学へは、Erasmus+（大学間の学生・スタッフの交流を目的としたEUによる教育資金助成プログラム）による学生派遣も行っています。

国・地域	教育研究機関	国・地域	教育研究機関
シンガポール Singapore	南洋理工大學 Nanyang Technological University *	オーストリア Austria	FHヨアネウム応用科学大学 FH Joannrum University * グラーツ大学 University of Graz *
タイ Thailand	カセサート大学 Kasetsart University *	オランダ Netherlands	ライデン大学 Leiden University *
マレーシア Malaysia	マラヤ大学 University of Malaya	スイス Switzerland	バーゼル大学 University of Basel *
大韓民国 Korea	ナザレ大学 Korea Nazarene University * 釜山国立大学 Pusan National University * ソウル国立大学 Seoul National University * 国立済州大校 Jeju National University * 中央大校 Chung-Ang University *	スペイン Spain	バルセロナ大学 University of Barcelona *
中華人民共和国 China	北京師範大学 Beijing Normal University * 華東師範大学 East China Normal University * 南京大学 Nanjing University * 中国人民大 Renmin University of China 上海交通大 Shanghai Jiao Tong University * 香港大 The University of Hong Kong * 清華大 Tsinghua University * 武漢大 Wuhan University * 梨花女子大校 Ewha Womans University	スロバキア Slovakia	コメニウス大学 Comenius University
台湾 Taiwan	国立台湾大 National Taiwan University * 国立政治大 National Chengchi University * 国立成功大 National Cheng Kung University *	チェコ Czech	カレル大 Charles University *
インドネシア Indonesia	スマランPGRI大 Universitas PGRI Semarang	ノルウェー Norway	オスロ・アーケシュフース大 Oslo Akershus University
フィリピン Philippines	サンベダ大 San Beda College * アテネオ・デ・マニラ大 Ateneo de Manila University *	ドイツ Germany	キール大 Kiel University * トリアー大 Trier University * ドレスデン工大 Technische University of Dresden * ハンブルク大 Universität Hamburg * ミュンヘン工大 Technische University of Munich * ダルムシュタット工大 Technische Universität Darmstadt * ベルリン自由大 Free University of Berlin *
ネパール Nepal	トリバン大 Tribhuvan University	ハンガリー Hungary	エトヴェシュ・ロラード大 Eotvos Lorand University *
モンゴル Mongolia	モンゴル国立大 National University of Mongolia *	フランス France	リヨン高等師範学校 Ecole Normale Supérieure de Lyon * リール第3大 Université Lille 3 * パリ第2(パンテオン・アサス)大 Université Paris 2 Panthéon-Assas パリ・ディドロ(パリ第7)大 Université Paris Diderot Paris 7 * パリ・ナンテール大 Université de Paris Nanterre *
バングラデシュ Bangladesh	IUBAT International University of Business Agriculture and Technology Dhaka	ブルガリア Bulgaria	ソフィア大 Sofia University St. Kliment Ohridski *
オーストラリア Austria	クイーンズランド大 The University of Queensland * 西オーストラリア大 The University of Western Australia * ウーロンゴン大 University of Wollongong * ニューサウスウェールズ大 The University of New South Wales *	ベルギー Belgium	ブリュッセル自由大 Vrije Universiteit Brussel *
米国 USA	ピッツバーグ大 University of Pittsburgh * ジョージア工大 Georgia Institute of Technology * 南フロリダ大 The University of South Florida	ポーランド Poland	ヤゲウォ大 Jagiellonian University in Krakow * ニコラウス・コペルニクス大 Nicolaus Copernicus University in Toruń *
カナダ Canada	オタワ大 University of Ottawa * ウェスタンオンタリオ大 The University of Western Ontario	リトアニア Lithuania	ヴィリニウス・ゲディミナス工大 Vilnius Gediminas Technical University *
イタリア Italy	ヴェネツィア大 Ca' Foscari University of Venice * ボローニャ大 University of Bologna *	ロシア Russia	サンクトペテルブルク大 Saint-Petersburg State University *
英国 United Kingdom	ロンドン大アジア・アフリカ研究院(SOAS) School of Oriental and African Studies, University of London * ロンドン大 University College London		

* 交換留学制度のある協定校

キャリア教育

人間発達環境学研究科では、所属する大学院生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。



1 充実したバックアップ体制

学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するキャリアサポートセンターを設置しており、大学院生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。

2 各種セミナー、ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援（就活スケジュール、エントリーシート作成、業界・企業・仕事研究、グループディスカッション練習、面接対策など）、教員採用試験対策講座、各自治体教育委員会からの説明会、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、OBOG訪問会（業界、企業、仕事研究）、キャリア講座などを開催しています。

3 就職、進路、キャリアに関する個別相談

専任のキャリアアドバイザーが常駐し、就職活動、或いは、進路・キャリア形成全般に関する支援を、個別面談という形で行っています。具体的には、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論文フィードバック、模擬面接、進路・キャリアなどに関する相談に対応しています。

施設紹介



図書館

神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める学術雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースも利用することができます。



学内ネットワーク、教育用端末

鶴甲第2キャンパスのほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。また、神戸大学では、教育・研究・学習の目的で、Apple社のiMacを約1300台設置しており、鶴甲第2キャンパスにおいても利用することができます。



ラーニングcommons

ラーニングcommonsとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に入出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。鶴甲第2キャンパスには、4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

入試情報、沿革

募集人員と入試日程 (2021年4月入学)

博士課程前期課程

専攻	募集人員	講座	受験区分	入試日程 (※3)
人間発達	51名 (※1)(※2)	人間発達	心理系/表現系/行動系/教育系/臨床心理学コース	出願期間: 2020年7月28日(火)~8月3日(月) 試験期日: 2020年9月17日(木)、18日(金)
	4名		1年履修コース	出願期間: 2020年11月20日(金)~26日(木) 試験期日: 2020年12月26日(土)、27日(日)
人間環境学	36名 (※2)	人間環境学	自然環境論/数理情報環境論/生活環境論/社会環境論	出願期間: 2020年7月28日(火)~8月3日(月) 試験期日: 2020年9月17日(木)

※1 募集人員51名のうち、臨床心理学コースは、10人程度を募集します。

※2 募集人員の中には、社会人特別入試若干人及び外国人留学生特別入試若干人を含みます。

※3 詳細については、学生募集要項でご確認ください。

博士課程後期課程

専攻	募集人員	講座	受験区分	入試日程 (※)
人間発達	11名	人間発達	心理系/表現系/行動系/教育系	出願期間: 2021年1月18日(月)~22日(金) 試験期日: 2021年2月28日(日)
人間環境学	6名	人間環境学	自然環境論/数理情報環境論 生活環境論/社会環境論	第I期 出願期間: 2020年7月13日(月)~17日(金) 試験期日: 2020年8月20日(木)
		環境先端科学(連携講座)	環境先端科学	第II期 出願期間: 2021年1月18日(月)~22日(金) 試験期日: 2021年2月28日(日)

※ 詳細については、学生募集要項でご確認ください。

奨学金制度

本学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります。各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除(全額免除・半額免除)の制度があります。

学生募集について

人間発達環境学研究科
博士課程前期課程 入試

人間発達環境学研究科
博士課程後期課程 入試



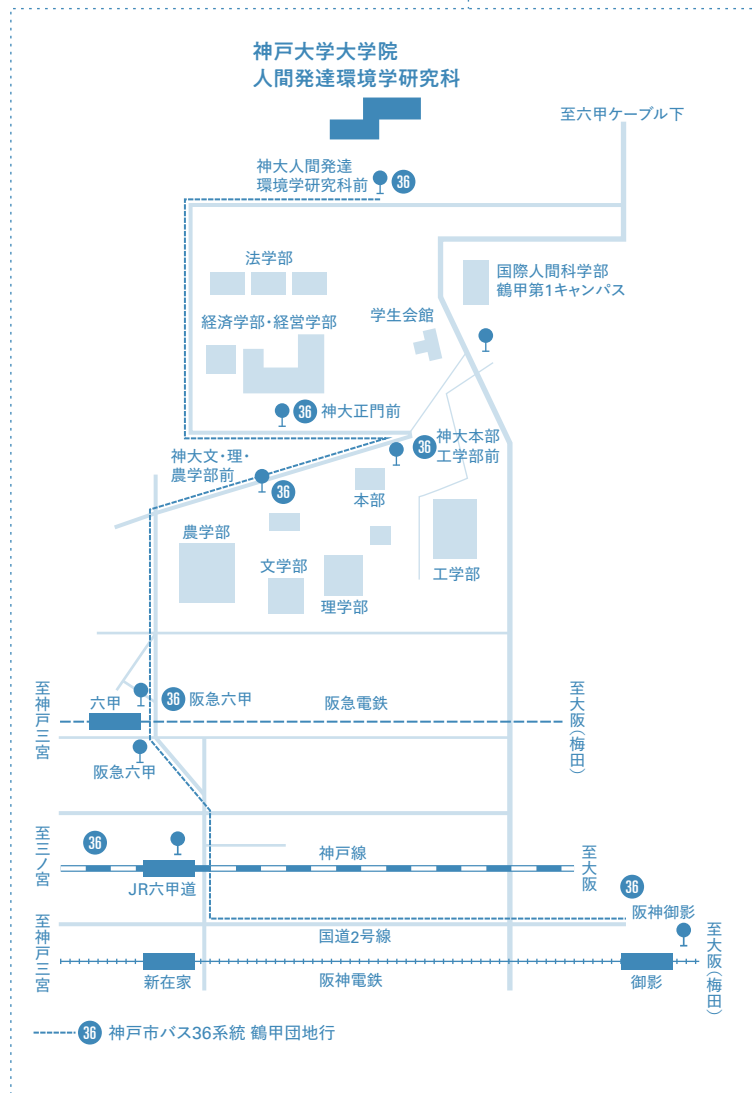
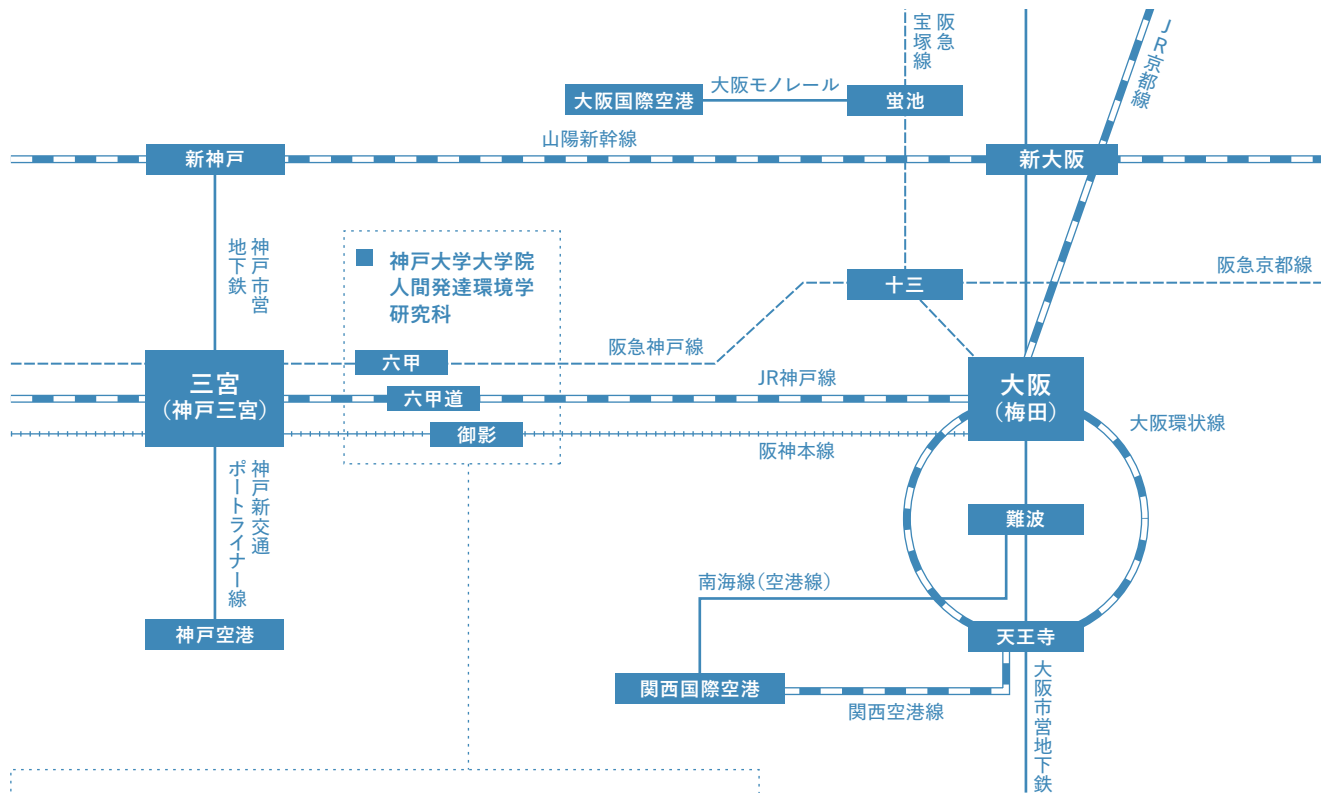
入試に関するお問い合わせ

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係
[所在地] 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
[電話] 078-803-7920、078-803-7924
[メール] edu-info@h.kobe-u.ac.jp

沿革

- 1874年 10月 兵庫県師範伝習所設置
- 1877年 1月 神戸師範学校と改称
- 1886年 4月 兵庫県尋常師範学校と改称
- 1898年 4月 兵庫県師範学校と改称
- 1900年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
- 1900年 4月 兵庫県師範学校を兵庫県第一師範学校と改称
- 1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
- 1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
- 1919年 4月 兵庫県立農学校甲種別科設置
- 1923年 3月 兵庫県立農業補習学校教員養成所として兵庫県立農学校甲種別科が独立
- 1935年 6月 兵庫県立農業補習学校教員養成所を兵庫県立青年学校教員養成所と改称
- 1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
- 1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校を包括し官立移管
- 1944年 4月 兵庫青年師範学校として兵庫県立青年学校教員養成所を官立移管
- 1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
- 1965年 4月 神戸大学教育専攻科を設置
- 1981年 4月 神戸大学大学院教育学研究科修士課程を設置
- 1992年 10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
- 1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
- 1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程を設置
- 2005年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
- 2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、
神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
- 2013年 4月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科の4専攻
(心身発達専攻、教育・学習専攻、人間行動専攻、人間表現専攻)を
1専攻(人間発達専攻)に改組
- 2017年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を再編統合し、国際人間科学部を設置

Access アクセス



最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗り、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
TEL 078-803-7924 FAX 078-803-7929
<https://www.h.kobe-u.ac.jp>



2020年5月発行

